

平成25年度 東京都商品等安全対策協議会「ブラインド等のひも*の安全対策」

ここでいう「ブラインド等のひも」とは、ブラインド類やスクリーン類のひも部分の他、カーテンのタッセル等のひも状部分をいう。

背景

◎事故情報

国内の状況

国内の事故事例は6件。うち、死亡事故が1件。

- 2007年と2013年に、カーテンやブラインドのひもによる縊頸（いっけい：首吊り状態）で救急搬送された事故が2件あった。共に軽症。（東京消防庁救急搬送事例）
- 2012年と2013年に、ブラインドのひもやカーテンの留めひも（タッセル）が原因と思われる縊頸（いっけい）事故が3件あった。うち1件は死亡。（日本小児科学会 Injury Alert）
- 2013年に、ブラインドのひもに子供の首が引っかかった事故が1件あった。（事故情報データベースシステム）

海外の状況

- 1985年から2012年までにブラインド等のひもでの子供の死亡事故が324件、負傷事故が122件報告されている。（米国消費者製品安全委員会の統計）
- 2008年から2010年までの間、英国、アイルランド、フィンランド、オランダ及びトルコにおいて15ヶ月から36ヶ月までの子供のブラインド等のひもによる死亡事故が10件報告されている。（2011年欧州委員会決定で引用された統計）

◎安全対策

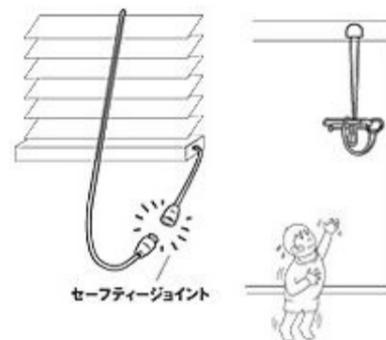
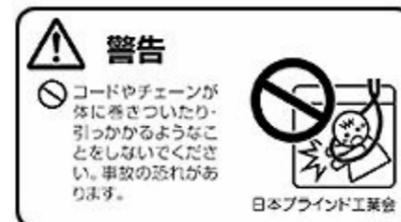
国内の状況

- 日本ブラインド工業会では、2005年にブラインド類の操作コード（チェーン）事故防止に関する警告表示を周知徹底。
- 安全器具は、荷重がかかると外れるセーフティジョイントや、子供の手の届かない位置にひもを束ねて上げておくコードクリップ等があり、各社の判断により装備。
- 安全器具の使用や取り付けは、消費者の判断に委ねられているものもある。

安全器具の使用実態・有効性は不明

海外の状況

- ブラインド等のひもの安全確保のために任意規格や強制法規が導入されている国もある。
- 欧州委員会では、規格の見直しを実施中。



重篤な
被害となる
危険性がある！

安全対策の強化が必要

協議会

- 対象商品
ブラインド等のひも
- 検討内容
1 ブラインド等のひもによる縊頸（いっけい）の実態把握
2 事故防止対策の検討
- 委員構成
消費者、事業者、学識経験者等の代表
- 検討期間
平成25年10月から平成26年3月まで（3回開催）

事例・実態の把握と検証

調査等

- 文献調査等
 - 海外での事故事例
 - 海外での規制状況
- アンケート調査（平成25年10月下旬～11月中旬予定）
 - 国内における事故、ヒヤリ・ハット事例等
- 事故再現実験（平成25年11月中旬予定）
 - 事故の実態把握
 - 事故防止対策の有効性検証
- 事故防止対策の方向性提案

結果

都の対応

- 消費者への情報提供
- 関係する業界団体等への情報提供と要望
- 国への情報提供と要望

効果

事故の
未然防止